

【第一部「夢みる校長先生」について】

文部科学省選定映画『夢みる小学校』の公立学校Verです。

今作に出演する校長先生は、すべて公立学校の校長先生たちです。

増え続ける子どもたちの不登校数は、30万人ともいわれています。

子どもたちの人権は守られているのでしょうか？

この映画には「子どもが行きたくなる公立学校」のビジョンが満載です。

通知表をなくした校長 國分 一哉 神奈川県 茅ヶ崎市立 香川小学校校長

2020年度の学習指導要領の改訂をうけて
「子どものためになる評価方法」を
職員のみなさんと話し合いました。

私自身も以前から通知表の数字だけで
子ども同士が比べ合うことを無くしたい
という気持ちがありました。
香川小学校では「通知表」という手段ではなく
保護者とともに子どもの成長を見守りたい、
と考えたのです。
その責任はすべて私がとると、伝えました。

競争が激しい社会にあって
「それは理想論」と言われる保護者の方もいます。
「理想を求めるのが学校ではないでしょうか。」
と私はお答えしています。



出演：尾木直樹（教育評論家）、前川喜平（元文部科学省事務次官）、本間真二郎（自然派医師）、
西郷孝彦、原口真一、國分一哉、住田昌治、宮崎倉太郎、福田弘彦（公立学校 元校長）

プロデューサー・監督・撮影・編集：オオタヴィン

ナレーション：小泉今日子 エンディングテーマ：RC サクセション『すべてはALRIGHT』

制作：まほろばスタジオ 録音・整音：音響ハウス

2023年/ 日本/ 16:9 /カラー/82分/

オオタヴィン監督メッセージ

”子どもファーストを貫いた 夢みる校長たち” がいることをこの映画で知ってほしいのです。

「先生」くらい素敵な職業はない、って僕は思います。

全国の校長先生、保護者のみなさん、もっと、夢みてください。そして”学校の常識”を変えてください！